

母が亡くなり2年が経つ。命日は8月2日。弟と妹が東京から帰って来て無事に家族葬を行なった。麦刈りで忙しい時期だったので身内の集まりにした。

無人の「ピンポン」現象

次の日の8時30分に、隣の家に泊まっている妹たちの玄関のチャイムが「ピンポン」と鳴った。妹は誰か来たものと思い、玄関に向かうが誰もいない。そんなこともあるのかな？だった。夜になり、妹は1階で就眠中に突然と照明が点いたり消えたり……と私に話した。そんなことがあるのかよ、と半信半疑にも満たないイブカシサ満点状態。

で、翌朝8時25分くらいに居間に陣取ることになった。8時29分55秒、56秒、57秒、58秒、そして期待満載の30分を迎えた。だが何も起きなかった。その次の瞬間、「ピンポン」と鳴った。玄関に向かうが誰もいなかった。念のためセコムの動画装置を確認したが何も映っていないかった。やるね、母さん。この時刻は母が息を引き取った時間だ。この現象は妹が長沼にいる間、続いた。さて、私の農場では水分25%以

下で収穫された麦の乾燥機にシズオカの300石(36t)を6台使っている。その12時間から18時間後に麦の水分が17%以下になった状態で総貯蔵量500tの外に設置されたアメリカ製の貯留ビンに移される。この貯留ビンは大豆の乾燥にも利用してきたものだ。その後、麦の収穫が終わると出荷のためにアメリカ製の貯留ビンからシズオカの300石に戻され、出荷基準の水分12・5%以下に調整され20tトレーラーに20分で積み込まれ、集荷業者に運ばれる。昭和の乾燥機の火力の調節はポット式と呼ばれ、皿状の器に油を注ぎ、それが火力になる。問題は火事が多いことだ。多くは生産者が掃除を怠ったためなのだ。この30年はバーナー式、つまりノズルから灯油が噴射され火力となるので火事になりづらいらしい。事故の一例として、ある農家が不完全燃焼の生灯油が吹き付けられた

他力本願寺、長沼本院 教祖は日入ミヤイ!

Vol.161



宮井能雅

1953年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

穀物を集荷場に運び、それがほかの穀物と混ざり大騒ぎになったことがある。その場合……オツとその辺にしておくか……。

どちらにしても、乾燥機メーカーの安全装置があり、日中は誰か彼かが乾燥場にいるので火事や失火に対応できる。多くの麦生産者は夜間に無人でこの乾燥機を運転させることが多いと思う。私はビビりなので、オチオチと寝られたもの

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

ではない。そこで乾燥機用のエンジンで駆動される発電機を51ヘルツ、210ボルトに設定し、水温、油圧、シズオカ乾燥機の温度、送風、穀物漏れ、エマージェンシーの対応などを記載したチェックリストを作成して、19時から翌朝7時まで3時間おきに乾燥機の目視点検をしている。

この作業に携わるのは北海道大学農学部・富山出身のマガタ君だ。昨年も8月2日の朝7時まで作業して、朝食を取り、8時頃にエアコンの効いた部屋で睡眠に入った。夕食の時間になり、このマガタ君が「8時30分頃に呼びましたか」と聞いてきた。この時間に「ピンポーン」が鳴ったので急いで降りたが、誰もいなかった、と話している。私たち家族は「母さん、また来たか」と思った。大学生には簡単に事情を説明しておいた。

ピンポーンが来たのはいつか

今年も麦のシーズンになり、乾燥機の夜のパトロールをたまたま昨年と同じ大学生のマガタ君が担当することになった。今年も8月2日にピンポーン来るぞーと軽く脅しておいた。

7月下旬には麦収穫は終わっ

た。収穫時の乾燥状態も良く、麦の水分は高くても17%だった。19時くらいまで乾燥機を動かせば水分は15%以下になり、クールダウンも十分できたので、夜のパトロールは1日のみだった。

大学生は夜のパトロールから昼部隊に変更になるが、麦の収穫が終わった次の朝の5時30分にやはり「ピンポーン」が来た。マガタ君も落ちついた様子で「今年も来ましたね」となった。どうも母は富山出身のマガタ君をお気に入りの方だ。

その話を聞いた同級生の東京出身のマツナガ君が、「じゃー今晩泊まって、確かめるー」となった。ただ私の母はそんなことではビビらない。翌朝5時30分にやはり「ピンポーン」が来た。なんとマツナガ君は証拠となる動画まで撮っていたから大したものだ。まだ命日である8月2日までは数日あったが、朝のピンポーンはしばらく続いた。そして「本番」の8月2日がやってきた。

マガタ君には仕事開始を8時45分まで遅らせて母がやって来るか確認するように伝えた。8時30分には何も起きなかった。マガタ君は、今年も来ないのかな?と思っ

たそうだ。待機は8時45分までだ。その時刻はやってきた。何も起きない、と思ったその次に「ピンポーン」が来た、と報告を受けた。

私が8時30分ではなく45分まで待機するように伝えたのを察するようピンポーンが来た。まさしく以心伝心とはこのことなのか。などとタワイノないことをやっている。さすがにピンポーンは止まった。北海道電力様、あなたはすごい。ちなみにマガタ君は、水力担当の部署の北〇電力に就職することになった。

さて、北海道大学の学生用に5人乗りのランクル70を札幌に置いてある。なぜランクルか? ごつついフレームが付いているからだ。このフレームがある車とない車では耐久性が違う。ボンネットが長いので衝突時のダメージが全然違うのだ。チャチャいセダンや軽自動車に将来ある学生を往復で2時間も乗せるわけにはいかない。

地元高校生はどうかだつて? 地元の高校生は働かない、全くダメ。セブイレブンでも高校生バイトはゼロ。しかも地元高校の偏差値はこの20年でバカ下がり。こ

の使えない高校生の親は私よりも10歳以上若い世代だ。早い話、与えられた反日民主主義を受けた小作人根性世代でもある。

それにしても北海道大学の学生はマジメだ。言われたことは文句も言わず「はい承知しました」と答える。一日やって彼ら彼女たちから「この作業工程はこうやった方が良いのでは」と提案を受ける。よく話を聞くと確かにそうだと考えさせられる場面がある。

などなどと坊さんに話すと「よくある話です、決して怖い話ではありません。一番怖いのは人の心のなかにあります」と解釈していただいた。この坊さんにはこんなお願いをした。

「私は酒、たばこ、コーヒー、ギャブル、味噌汁、たくわん、ラツキョウ、福神漬、馬刺しをやらない、つまりモルモン教を理解できるのです、モルモン系浄土真宗と名乗っても良いですか?」

坊さんはニコツと笑い「良いですよ」と言ってくれた。これで正式に他力本願寺、長沼本院、教祖は日入ミヤイとなった。多額のお布施と新規檀家受け入れます。信じるものは救われますよ。